

企業名：グンゼ

1. この会社が目指す姿が理解できるか

グンゼは「人間尊重」を第一として、「人を育て、人を生かし、人を大切にすること」を理念としている。そのうえでお客さんに最高の満足を与える、共存共栄を目指している。また、SDGs等のサステナビリティにも敏感に反応しており、2015年の国連総会で採決されたSDGs目標をいち早く中期経営目標に組み込んでいた。グンゼという会社の目指す姿は、環境や社会の問題に対して解決策を示す、「社会、お客さん、会社の共存共栄」であるといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

グンゼの競争優位性は大きく3つあると考える。サステナブル経営、多角的経営、付加価値の創造である。

グンゼは社会との共存共栄を目指しており、社会問題に対して非常に敏感である。現代社会では環境に配慮しているかどうか企業が企業価値に大きくかかわっている。環境に配慮した製品も多く開発しており、他企業に比べて優れているといえる。

グンゼの事業は3つに大別される。機能ソリューション事業、アパレル事業、ライフクリエイティブ事業である。アパレル事業を中心としている会社でここまで多角化している会社はほとんどない。トップクラスの樹木取扱量や国内90%以上の吸収剤のシェアなど幅広い分野に強い。そのため、1つの事業が不調でもほかの事業で取り返すことができるため安全性が高いといえる。

多角化が行われているため、複合技術によって付加価値を創造することができる。繊維加工、樹脂加工、表面加工が主な技術である。

これらの3点が競合他社と比較して競争優位を取り、企業価値を生み出しているといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私は上記の3つの競争優位性のうち、多角的経営、付加価値の創造は持続性があると考えられる。多角的経営は現在の不安定な社会で安定するために必要であり、他企業もいきなり多角化することは難しいため持続性がある。

また、今まで築いてきた技術が一朝一夕に失われることはなく、今後も持続性があるといえる。

一方、サステナブル経営は持続性がないと私はないと考える。SDGsが世間に浸透してきたのはここ最近のことである。そのため、乗り遅れた企業やあまり関心を持っていなかった企業も多いと思われる。しかし、そのことが企業価値を高めることが判明した以上、ほと

んどの企業がサステナブル経営を名乗りだすと考える。そのため競争優位の持続性はないと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

グンゼは上で書いた通り、人を大切にする企業である。しかし、具体的にどのような活動を行っているか、どのようなサポートを行っているかなどは書かれておらず、あまり人的資本の価値向上を達成できるかどうかはわからなかった。採用に関することも書かれていなかったため、私は人的資本の価値向上を達成できるとは思わなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

最初の数ページが企業理念などで占められており、最初何を行っている会社かわからなかった。事業紹介を行っていたが、何が主要なのかを理解するのも難しかった。そのため、主な製品紹介を先に行うと良いと思った。また、4で書いた通り、将来世代に対しての情報の提示が足りていないと感じた。